

昭和十四年十二月 奉天 永田納

第二次基礎訓練ニ引續キ教官 助教 助手

要員ヲ教育シ技倆向上ヲ期スルト共ニ「スキ

」部隊戦闘法ノ一部ヲ研究訓練ス

獨立山砲 二月二十日

復 歸 獨立山砲兵第三聯隊第二十八師團長ノ指揮

ヲ脱シ第一方面軍直轄トナル

内務教育 二月二十三日―二十四日

1217

實 施

大(中)隊長著

眼ヲ向上ニ成テ成果刷新ヲ期スル爲メ内務教育ヲ

實施ス

化學戰

二月二十五日—二十七日

教 育

關總參教第一五九七號ニ依リ隷下部隊兵器

被服委員及瓦斯掛將校ニ對シ化學戰資

材ノ取扱法ヲ教育ス

幕僚更迭

三月一日

昭和十四年十二月奉天 永田納

1218

昭和十四年十二月 永田 永田

第二十八師團參謀

陸軍少佐

津森 藤吉

補第五軍參謀

陸軍兵器行政本部兼陸軍省軍務局附

大本營陸軍報道部附

陸軍少佐

杉本 和郎

補第二十八師團參謀

第二十八師團副官

陸軍中佐

檜皮 研三

補仙臺陸軍飛行學校附(地區司令官要員)

陸軍豫科士官學校生徒隊中隊長

陸軍少佐

濱

久

補第二十八師團副官

第十六野戰貨物廠長

部長轉入

陸軍主計大佐 三浦信一

補第三十八師團經理部長

第三十八師團軍醫部長

陸軍軍醫大佐 川北伊勢方士

補南方燃料本部軍醫部長

齊々哈爾 三月六日

附道

移駐 齊作命申第一五〇號ニ依リ師團ハ齊々哈爾ニ移

駐ヲ命セラル

對シ新瓦斯防護教範ノ主旨ヲ並及徹底シ

對化指揮技能ヲ向上ス

昭和十四年十二月奉天 永田精

1220
1221

陸軍主計大佐 三浦信一

補第三十八師團經理部長

第三十八師團軍醫部長

陸軍軍醫大佐 川北伊勢方士ロ

補南方燃料本部軍醫部長

化學戰 三月九日—十日

教 育 關總參教第一五九七號ニ依リ隷下各兵大隊長ニ

對シ新瓦斯防護教範ノ主旨ヲ普及徹底シ

對化指揮技能ヲ向上ス

昭和十四年十二月奉天 永田納

1220
1221

國境視察 三月十三日―十八日

師團長三上吉祥屯附近國境視察不並ニ守備

隊巡視ヲ實施ス

第1次移 三月十九日―二十五日

駐實施 歩兵第三十六聯隊長ヲ指揮官トスル第1次移 駐

部隊左ノ如シ

歩兵第三十六聯隊 (齊々哈爾)

騎兵第二十八聯隊 部(富拉爾基)

砲兵第二十八聯隊 部(齊々哈爾)

工兵第二十八聯隊 部

輜重兵第二十八聯隊 部

昭和十四年十二月奉天 永田納

1222
1223

國境視察 三月十三日―十八日

師團長ニハ吉祥屯附近國境視察並ニ守備

隊巡視ヲ實施ス

常盤隊 三月二十日

復、歸 第五軍指揮下ニアリル常盤隊ハ師團移駐

ニ為 隷下ニ復歸セシメラル

御真影 三月二十三日

昭和十四年十二月奉天 永田納

1222

1223

勅諭 第三十八歩兵團司令部奉戴ニ係ル 御真影

内地奉遷 勅諭ヲ關總副第三八六號ニ依リ東京ニ奉遷ス

第二次移 四月五日

駐實施 第二次移 駐 部隊左ノ如シ

師團通信隊 (齊々哈爾)

制毒隊 "

兵器勤務隊 "

病馬廠 "

防疫給水部 "

第三次移 四月十五日—二十五日

昭和十四年十二月奉天 永田納

駐實施 歩兵第三聯隊長ヲ指揮官トスル第三次移駐

部隊タル 歩兵第三聯隊主力、歩兵第三十六聯隊一

部ハ納金ニ前進シ第四軍司令官ノ指揮下ニ

入ラシメラル

第四次移 四月二十日

駐實施 兵團ハ王カラ以テ第四次移駐ヲ實現ス

移駐部隊左ノ如シ

<p>第二師團司令部 (齊々哈爾)</p>	<p>騎兵第二十八聯隊</p>	<p>山砲兵第二十八聯隊</p>	<p>工兵第二十八聯隊</p>	<p>輜重兵第二十八聯隊</p>	<p>師團長 六月四日</p>	<p>申告師團長ニ師團主力移駐ニ了ルニ付</p>	<p>幕僚ヲ帶同第三方面軍司令部ニ申告ス</p>	<p>第五次移 六月十三日</p>
-----------------------	-----------------	------------------	-----------------	------------------	-----------------	--------------------------	--------------------------	-------------------

昭和十四。九。鐵道監獄納

陸軍

駐實施 歩兵第三十聯隊第五次移駐部隊トシテ嫩

江ニ前進ス

部 隊 六月十四日

編 成 歩兵第三〇聯隊 第一七八聯隊

擔 任 工兵第二八聯隊 工兵第一〇七聯隊

輜重兵第二十聯隊 輜重兵第一〇七聯隊

第二十二師團防疫給水部 第一〇七師團防疫給水部

右ノ通り編成担任ヲ命ゼラル

師團長 六月十八日―十九日

檢閲實施 師團長ニ十八日十九日兩日ニ回リ歩兵第三聯

隊ノ檢閲ヲ實施ス

臨時編 六月二十六日

大陸命第一三三七号とあるは
大陸命第一〇三七号の誤り也
ある 三十三号 伊藤伸三官

成下令大陸命第一三三七號ニ依リ師團ハ臨時編成ヲ下

合セラレ第三方面軍ノ編組ヲ解カレ大本營直

昭和十四、九、鐵道監獄納

ニ入ラシメラル

獨立練射 六月二十八日

砲編合 齊作命甲第二四號ニ依リ左記部隊師團ノ

隸下ニ入ラシメラル

獨立TA 第二五中隊

同 第二六中隊

師團戰尉 六月三十日

昭和十四、九、鐵道監製納

1230

訓示 七月三日

關東軍司令官及第三方面軍司令官ヨリ左記訓示受領ス

左記

關東軍司令官訓示

今々大東亞戦争ハ決戦ノ段階ニ到達シ戦況真ニ凄愴苛烈ヲ極メ皇國隆替ノ關頭ニ立ツノ秋 滿洲ニ育成鍛錬シテ確固タル團結ヲ有スル者第二十八師團ハ全軍ヨリ簡拔セラレテ近ク征途ニ就カントス 正ニ兵團ノ榮譽譽言ハズノ本懐ト謂フベク兵團眞價發揮ノ好機ハ實ニ今日ニ在リ 翻ツテ觀ルニ兵團ノ赴カントスル戦場ハ氣候風土著シク其ノ趣ヲ異ニシ熾烈ナル反攻ヲ企圖スル敵ニ對シ寡カク之ヲ戰手碎スヘキ重任ニ當用ルモノト豫想セラル

宜シテ豫想心戰場ノ冥冥相ニ深ク想ヒテ致シ愈々鐵
石ノ團結ヲ巩固シテ敵軍ノ素質戰法及過去ノ戰
訓等ヲ究メテ教育訓練ノ周到ヲ期シ又保護其ノ
他ノ諸津備ヲ萬全ナラシメテ出戰ノ目的ヲ完
遂シ生レナガラニテ在滿完勝兵團タルノ冥冥ヲ
顯揚發揮スヘシ
諒ルルニ方リ將兵一同ハ武運益々隆昌ヲランコト
ヲ祈ル

昭和十九年七月三日

關東軍總司令官

梅津美治郎

第三方面軍司令官訓示

隸下中堅兵團トシテ北邊鎮護ニ徹タル精強ヲ示
シ正ニ今後ノ活躍ヲ期待セシ第七八六部隊近ク
聖戰ノ第一線ニ奮力進セントス

兵團ノ榮譽 武人ノ本懐 何モノカ之ニ加ヘシ全關
東軍ノ要望亦一身ニ鍾ル壯ナル哉

茲ニ四項ヲ要望シテ餒トナシ其ノ行ヲ壯ンナラ

シメントス

一、勇猛果敢任殺カニ邁進シ必勝ヲ期スヘシ

二、速カニ戰場ノ様相ヲ把握シテ之ニ即スル訓

練ノ精到ヲ期スヘシ

三、瘡痍百難ヲ克服シ戦力發揮ニ遺憾ナカ

ラシムヘシ

四、駐屯地出發ヨリ常ニ敵地ニ在ルノ觀念ニ徹

シ不憚見アルヘカラス

聖戰日ニ凍槍苛烈ヲルヘ正ニ皇國ノ運命ヲ

決セントス

兵團ノ任極メテ重シ

切ニ健闘ヲ望ム

終リニサ位ニ北邊鎮護ノ勞ヲ多クシ深甚ノ謝
意ヲ表シ武運ノ彌榮ヲ禱ル

昭和十九年七月三日

第十三部隊長

第三方面軍司令官 岡部 正 印

昭和十四、九、鐵道監獄納

1234

陸軍

序列加入 大陸命第一〇四三號ニ依リ師團ハ第三十三軍

ノ戦闘序列ニ編入セシメラル

師團長七月三日

申告一師團長ニ關東軍司令部ニ出頭シ關東軍司

令官ニ申告ス

堀江副官隨行ス

參謀長一福地參謀長、沖繩縣宮古島ニ先行ス

1235

出發 隨行官 小坂少尉 外村少尉	御眞影 七月七日	奉遷 關總副第二八〇號ニ依リ歩兵第三聯隊第三十	聯隊第三十六聯隊奉戴ニ係ル御眞影勅諭ヲ	昂々溪 獨立舟備隊司令部奉遷ス	師團長 師團長行動次ノ如シ	行動 七月九日 齊々哈爾出發
---------------------	-------------	----------------------------	---------------------	--------------------	------------------	----------------------

昭和十四、九、鐵道部藏納

1236

陸軍

七月十日 奉天二泊

七月十日 飛行機ヲ奉天ヨリ出カ發

同日 釜山到着

七月十日-七月十六日 釜山滞在

七月十六日 朝練路船ヨリ釜山出帆

夕刻博多上陸

七月十六日十七日 福岡二泊

<p>七月十八日 飛行機ニテ那霸着軍司</p>	<p>司令部ニ連絡ニ泊</p>	<p>七月二十日 宮古島ニ到着 戦闘司令部ヲ</p>	<p>開設ス</p>	<p>釜山集結 七月十五日</p>	<p>師團ハ釜山ニ集結ヲ完了ス</p>	<p>師團司令部 七月十八日</p>
-----------------------------	-----------------	--------------------------------	------------	-------------------	---------------------	--------------------

昭和十四、九、鐵道監獄納

1238

陸軍

兵力還送師團ハ關總參電第七九〇ニ號ニ依リ一部兵力ヲ

齊々哈爾ニ還送セシメラル

幕僚 七月二十日

灣出 第二十八師團副官 陸軍大尉 宮澤春正

環春新設師團司令部附ニ充用セラル

指揮下 七月二十日

部隊 左記部隊師團長ノ指揮下ニ入ラシメラル

獨立混成第四十五旅團

批發出動
又ハノノ
ノノ

1239

獨立速射砲第五大隊	戰車第二十七聯隊第三中隊	野戰重砲兵第一聯隊第一大隊	重砲兵第八聯隊	特設警備第二〇九中隊	特設警備第二一〇中隊	特設警備第二二六中隊	特設警備第二二七中隊	第六十九飛行場大隊	第二〇五飛行場大隊	第一三八野戰飛行場設定隊	第一二九野戰飛行場設定隊	第二獨立整備隊	要塞建築勤務第八中隊
-----------	--------------	---------------	---------	------------	------------	------------	------------	-----------	-----------	--------------	--------------	---------	------------

昭和十四、九、鐵道監獄納

船浮陸軍病院	主力釜 七月二十一日	山出帆 主力部隊ハ輸送船ニ分乗シ釜山ヲ出帆ス	幕僚 八月一日	進級 任陸軍少將 陸軍大佐 福地春男	任陸軍中佐 陸軍少佐 濱久	給與改正 八月一日
--------	------------	------------------------	---------	-----------------------	------------------	-----------

陸軍

陸亞密第九三五(號)ニ依リ南西諸島方面ニ對シ
進戰地増俸ヲ加給セラル

指揮下八月七日

部 隊 左記部隊師團長ノ指揮下ニ入ラシメラル

獨立自動車第二八四中隊

陸上勤務第一〇九中隊

水上勤務第一〇一中隊

電信第二十七聯隊ノ五中隊

宮古陸軍病院

師團主 八月十二日

昭和十四、九、鐵道監獄納

1242

陸軍

力到着 師團主力船團ハ長期ノ航海ヲ終リ十二時宮古

島ニ到着上陸ス

參謀長 八月十五日

會 同 參謀長ニハ臺北ニ於ケル參謀長會同出席ノ

爲也張ス

部長 八月十六日

轉入 關東防衛軍軍醫部々員 陸軍々醫中佐 脇田 豊

補第三師團軍醫部長

集結完了 故障ノ爲鹿兒島近海ヨリ鹿兒島ニ連航セル部

1243
1244

力到着 師團主力船團ハ長期ノ航海ヲ終リ十二時宮古	島ニ到着上陸ス	參謀長 八月十五日	會 同參謀長ニハ臺北ニ於ケル參謀長會同出席ノ	爲出張ス	師團宮古島 八月二十三日	集結完了 故障ノ爲鹿兒島近海ヨリ鹿兒島ニ廻航セル部
-----------------------------	---------	--------------	---------------------------	------	-----------------	------------------------------

陸
軍

1243
1244

	兵力宮古島ニ到着シ師團宮古島集結ヲ完了ス
指揮	八月二十五日
轉	移第二〇五飛行場大隊師團長ノ指揮ヲ脱ス
兵團長	八月二十九日
會同	參謀長ニ那霸軍司令部ニ於ケル兵團長會同參
	加ノ爲師團長代理トシテ出席ス
指揮下	八月三十日

昭和十四、九、鐵道監獄納

陸軍

部隊第三十九航空地區司令官、師團長ノ指揮下ニ入ラ

シメラル

防衛圖上 九月二日三日

研究實施 九月上旬ニ於ケル作戰準備進捗狀態ヲ基礎トス

ル戰鬥指導要領ヲ普及徹底セシメ特ニ部隊ノ訓

練及築城施設ヲ改善スル目的ヲ以テ宮古島陸海

軍將校集會所ニ於テ參謀長總裁ノ下ニ防衛圖

1246

陸軍	獨立機關銃第十六大隊	獨立機關銃第十九大隊(不欠)	第四港灣設定隊	第一築城隊	第二築城隊	作井第八中隊	作井第十六中隊	第一四五獨立整備隊	防疫給水 九月十日	部長病死 師團防疫給水部長陸軍軍醫少佐石塚政夫腸	チブスニテ逝去ス
----	------------	----------------	---------	-------	-------	--------	---------	-----------	--------------	--------------------------	----------

指揮 九月十四日

轉 移第三十九航空地區司令官、師團長ノ指揮ヲ脱シ

第八飛行師團長ノ指揮下ニ入ラシメラル

幕僚 九月十五日

進級

陸軍中尉 堀江道徳

任陸軍大尉

軍司令官 九月十七日

來島 第三十二軍司令官牛島閣下ニ入宮古島ノ初度

昭和十四、九、鐵道監獄納

陸軍

巡視ヲ實施セラル

指揮下九月二十六日

部隊沖繩方面根據地隊所屬平射砲臺ニ師團長ヲ指

揮ニ入ラシメラル

師團長九月二十九日三十日

巡視師團長ニ石垣地區ノ初度巡視ヲ實施ス

隨行官 陸路參謀 堀江副官 經理部長

軍醫部長

<p>經理局長 十月一日</p>	<p>來島 經理局長 栗橋中將來島視察セラル</p>	<p>飛行場 十月五日</p>	<p>完成 師團主力ヲ擧ゲテ作業中ナリシ中飛行場完成ス</p>	<p>兵棋演習 十月八日</p>	<p>習陪觀 師團長ニ十月十日十一日那霸軍司令部ニ於テ實</p>	<p>施セラルル兵棋演習陪觀ノ爲出張ス</p>
------------------	----------------------------	-----------------	---------------------------------	------------------	----------------------------------	-------------------------

昭和十四、九、鐵道監獄納

隨行官 堀江副官

陸軍

敵機 十月十日

來襲米第五十八機動部隊近接、報ニ南西諸島全地區

昨日來警戒警報發令セラレ至嚴ナル警戒實施中

1252

敵機	十月十三日	走ス、我方ノ損害極メテ輕微ナリ	主トシテ船舶ニ對シ銃爆撃ヲ行ヒ十三時四十五分遁	十三時十分再ヒ敵機十六機ハ第二次ト同様侵入シ	シ船舶ニ對シ銃爆撃ヲ爲シ八時二十分遁走ス	ヨリ宮古島ニ侵入シ陸海軍飛行場及平良港ニ在リ	ノ處七時四〇分敵艦上戦闘機八機ハ伊良部島上空
----	-------	-----------------	-------------------------	------------------------	----------------------	------------------------	------------------------

昭和十四、九、鐵道監獄納

1253

陸軍

來襲 臺灣東方海面ノ敵機動部隊ハ臺灣ヲ空襲ニツケル

現況ニ鑑ミ至嚴ナル警戒ヲ實施中ノ處十五時四十分敵

艦上機十數機伊良部島方向ヨリ侵入シ飛行場及

平良港灣ニ對シ銃爆撃ヲ爲ス

部隊編 十月十五日

戒備合 球防召電第六十六號ニ基キ特設警戒備工

兵隊第五〇五、五〇六中隊ヲ編成シ師團隸

下ニ入ラシメラル

1254
1255

陸軍

來襲 臺灣東方海面ノ敵機動部隊ハ臺灣ヲ空襲シツ、アル

現況ニ鑑ミ至嚴ナル警戒ヲ實施中ノ處十五時四十分敵

艦上機十數機伊良部島方向ヨリ侵入シ飛行場及

平良港灣ニ對シ銃爆撃ヲ爲ス

1254
1255

待從武官十月十六日

御來島 待從武官坪島中將ヲ御差遣遊バカレ師團長ヨリ

狀況御聽取ノ上陣地ノ部及陸軍中飛行場ヲ御

視察セラル師團長ニ御目錄ノ品ヲ將兵ニ御浦御後

ヲ下賜セラル

參謀長

出張

參謀長六石垣島宮崎部隊ニ於テ實施セララル

昭和十四、九、鐵嶺監獄納

陸軍

兵棋演習實視ノ爲出張ス

指揮下十月二十一日

部 隊 第四遊撃隊第四中隊ハ師團長ノ指揮下ニ入ラシメラル

防衛圖上 十月二十一日、二十二日

研究實施 石垣島防禦戰鬥細部ノ要領ヲ各大中隊ニ徹底

セシムル目的ヲ以テ石垣地區隊本部ニ於テ石垣地區

隊長宮崎少將統裁ノ下ニ石垣地區ノ防衛圖上研

	究ヲ實施ス
指揮	十月二十二日
轉	移集團防衛地域内ニ於ケル航空路司令官及陸軍
	中央氣象部長ノ隸下指揮下部隊ヲ師團長ノ
	區處下ニ入ラシメラル
防彙班	十月二十六日
編成	マラリヤ、デング熱ヲ予防シ人的戦力ノ増強ヲ圖ル

昭和十四、九、鐵道監獄納

陸軍

為防戡班編成ス

幕僚 十月三十一日

轉入 歩兵第三十聯隊大隊長 陸軍少佐 清野秀智

補第二十八師團副官

御眞影 十一月二日

奉還 豊作命丙第四十三號ニ基キ十三時三十分ヨリ宮古

郡内諸學校南靜園奉戴ニ係ル御眞影ヲ野原島

洞窟奉安所ニ奉還シ奉ル

指揮十一月二日

轉 移第二獨立整備隊ハ師團長ノ指揮下ヲ脱シ第

ハ飛行師團長ノ指揮下ニ入ラシメラル

指揮下十一月四日

部隊左記部隊師團長ノ指揮下ニ入ラシメラル

海軍迫撃砲隊

部隊編成ナキ迫撃砲

指揮下十一月十四日

昭和十四、九、鐵道監獄納

陸軍

部隊左記部隊師團長ノ指揮下ニ入ラシムラル

船舶工兵第二十三聯隊第一中隊

第三十港灣設定隊

第三十連絡艇隊

防衛圖上 十一月十五日、十六日

研究實施 大中隊長ニ防禦戰鬥細部ノ要領ヲ徹底セシムル目

的ヲ以テ中地區隊本部ニ於テ中地區隊長安藤少

將統裁ノ下ニ北中地區隊ノ防衛圖上研究ヲ實施ス

指揮下 十一月十九日	部隊 左記部隊師團長指揮下ニラシメラル 第二獨立警戒隊 第二獨立警戒隊 第二獨立警戒隊附屬無線通信隊	團隊長 十一月二十二日	更迭 輜重兵第二十八聯隊長 陸軍大佐 横山伊三郎 補輜重兵學校長 輜重兵第二十八聯隊長 陸軍少佐 宮川 正 補輜重兵第二十八聯隊長	傷害致 十一月二十六日
---------------	--	----------------	---	----------------

昭和十四、九、鐵道監獄納

陸軍

死事件 師團防疫給水部長石村大尉ハ部下下士官ト共ニ

會食シ飲酒酩酊ノ上十七時三十分頃自己軍刀ヲ

以テ技術曹長一主計軍曹一當番兵一及軍屬

共ヲ傷害致死セシメ

部長十一月二十八日

轉出 第二十八師團獸醫部長陸軍獸醫中佐走尾一三

補馬政局事務官

兵務局御用掛ヲ命ス

陸	陸	陸	陸	陸	陸	陸

部長 十二月四日

更迭

第三師團防疫給水部長 陸軍軍醫大尉 石村信夫

補第三十二軍司令部附

陸軍兵器行政本部附
兼陸軍軍醫學校附

陸軍軍醫少佐 大科達夫

補第三十八師團防疫給水部長

師團長 十二月十一日

巡視 師團長 三宮崎部隊教育及陣地

視察ヲ實施ス

陸軍

1265



指揮下 十二月四日

部隊 左記部隊師團長ノ指揮下ニ入ラシメラル

大本營陸軍部特務隊第三乃至第五特務班

指揮下 十二月八日

部隊 左記部隊師團長ノ指揮下ニ入ラシメラル

第五野戰航空修理廠

第二獨立整備隊

師團長 十二月十一日

巡視 師團長ニハ宮崎部隊教育及陣地

視察ヲ實施ス

陸 軍

隨行官 杉本參謀 堀江副官

昭和十六、四、奉監納

指揮下 十二月十一日

部隊 球作命田第八六號ニ據リ獨立機關銃第十九大隊第一中隊師團長ノ指揮下ニ入ラシメラル

圖上 十二月二日 ———— 十二月二十三日

研究 集團運用並各團隊以下ノ戰鬥指揮ヲ瘦

練シ様セテ防衛計畫特ニ築城並部隊訓練

ノ改善資料ヲ得ル目的ヲ以テ兵團直轄

各部隊長司令部ニ會同シ師團長

昭和十六、四、奉監納

陸軍

統裁ノ下ニ兵棋對抗演習ヲ實施ス

指揮下 十二月二十八日

部隊 石垣ニ展開スルハ電波警戒隊ノ同島到

著ト共ニ師團長ノ指揮下ニ入ラシメラル

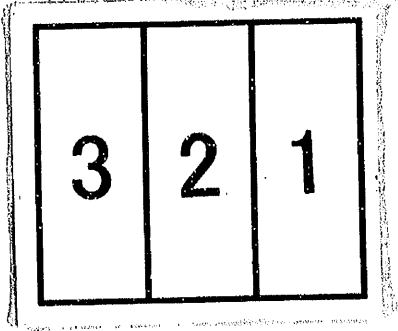
1268

昭和十六、四、奉盛納

昭和十六、四、奉盛納

1269

分割撮影ターゲット

分割した部分の撮影順序	
分割撮影した理由	A3版以上のため
文書等名	第二十八師団将校職員表
上記のとおり分割撮影したことを証明する。	

第二十八師團將校職負表

昭一九二一

第二十八師團司令部

步兵第三聯隊

步兵第三十聯隊

步兵第三十六聯隊

Table with columns for ranks (少尉, 中尉, 大尉, etc.) and names of officers across various units. The table is organized into sections for different units and ranks, with names listed in columns and ranks in rows.

1270
1271
1272

第三師團 第一聯隊 病院												第三師團 第二聯隊 病院												第三師團 第三聯隊 病院												第三師團 第四聯隊 病院											
長	長	長	長	長	長	長	長	長	長	長	長	長	長	長	長	長	長	長	長	長	長	長	長	長	長	長	長	長	長	長	長	長	長	長	長	長	長	長	長	長	長	長	長	長	長	長	
大尉	中尉	少尉	中尉	少尉	中尉	少尉	中尉	少尉	中尉	少尉	中尉	大尉	中尉	少尉	中尉	少尉	中尉	少尉	中尉	少尉	中尉	少尉	中尉	大尉	中尉	少尉	中尉	少尉	中尉	少尉	中尉	少尉	中尉	少尉	中尉	大尉	中尉	少尉	中尉	少尉	中尉	少尉	中尉	少尉	中尉	少尉	中尉
井石弘明	出村一男	石井楠壽	西條末男